

取組 内容

■ 遊休施設の利活用による地域の活性化 ～（仮）伊吹ハーブ・ガーデン構想～

- ・ 姫路市にある株式会社香寺ハーブ・ガーデンの総合監修のもと、「伊吹山の薬草」をテーマとした農家レストランと伊吹のヨモギを使ったハーブスキンケアによる6次産業化事業を展開します。

【事業展開イメージバース】



（施設イメージ）



（農家レストランイメージ）

- 地元の朝採れ野菜やハーブを使った“健康”と“美”をテーマにした農家レストラン
- 100%天然素材によるハーブスキンケア商品の製造、販売
（イブキジャコウソウ、イブキヨモギなど、伊吹地域特有のハーブをメイン商品として開発）
- 地元野菜や農産物、加工品の直売
- ハーブ栽培（ヨモギ、カモミール等）

背景

■ 激減した地域人口

- ・ 平成17年度の市町村合併時、伊吹北部8集落の人口は1,108人/388世帯、高齢化率36%でしたが、令和6年1月にはそれぞれ599人/291世帯、48%と地域が衰退しています。
- ・ 伊吹北部の集落内にある多目的集会施設は、建築から27年が経過した今、遊休化している状況です。



【遊休化している公共施設】

現状 の 課題

- 人口の減少と若者の流出
 - 少子高齢化による地域の衰退
 - 地域農業の衰退による耕作放棄地の増加
 - 地域に働く場所がない
 - 交流・関係人口が少ない
- 地域に遊休化している施設がある
➢ 何とか利活用できないか？

■ 薬草の宝庫と山岳信仰

- ・伊吹山は石灰岩地帯で、厳しい自然の中で特徴的な気候を示し、自然の猛威を畏れ敬う原始信仰と、古代日本武尊神話の「荒ぶる神」が、密教や道教などと結びついて伊吹山への山岳信仰が生まれました。
- ・古来より薬草の山と知られ、伊吹山に生育する植物約1,300種のうち約280種が薬用植物とされ、織田信長がポルトガルの宣教師に命じて伊吹山に薬草園を開かせたことが江戸時代の書物に記載されています。
- ・この地域の人々は薬草に親しんで生活し、採取して出荷、栽培に取り組んできました。



(▲施設付近からの伊吹山の景観)

■ 交流・関係人口の増加と移住・定住の促進

- ・山あいの中山間地域に人が集まり、賑わいを創出します。

■ 耕作放棄地の解消、農業振興

- ・原材料となる伊吹のヨモギやカモミールといった薬草、ハーブを生産するための産地化を行うことにより、耕作放棄地を解消し、農業振興を図ります。

■ 雇用の促進

- ・老若男女問わず、地域内に働く場所を創出します。

■ 特産品振興

- ・ヨモギなどの薬草を使ったスキンケア商品により特産品の商品化を行います。



(▲伊吹山麓のヨモギ群)

▶ 中山間地域の活性化を目指すことで、地域が元気になります。

- ・地域が主体となって事業を運営することで、まちに活気が戻ります。
- ・事業展開による相乗効果で周遊観光による観光客数の増加が見込めます。
- ・“健康”と“美”をテーマにした農家レストランによる予防医学が推進できます。



(▲伊吹のヨモギ)

■ 市公式WEBサイトへの企業名掲載、感謝状の贈呈

■ 中山間地域を応援する企業としてのイメージUP

■ 京阪神、東海、北陸からの観光客へのイメージUP

■ 山関係企業へのPR度UP

■ 薬草による健康志向企業としてのイメージUP

■ 寄付額の最大9割の法人関係税が軽減

伊吹山
のこと

事業
の
目的

得られる
成果

寄附
における
メリット
等